

日本産業衛生学会

# 関東地方会ニュース

(題字 高田 昂 筆)

発行所/日本産業衛生学会関東地方事務局・〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8

東京慈恵会医科大学環境保健医学講座内・TEL(03)3433-1111 内2266・FAX(03)5472-7526・発行責任者/清水 英佑



H-IIAロケット (提供: NASDA)

## 巻頭言

### — 混沌と統合 —



日本産業衛生学会理事

**浜口 伝博**

(日本アイ・ビー・エム)

歴史は私たちを励まし続ける。

尊敬すべき産業医学の先達たち、  
彼らの職場に巣くう病根への洞察力、絶え間なき自己研鑽と職場改善への厚き熱意は、  
時代を超えてなお私たちを感動させ、産業医学者としての誇りを高揚させる。  
労働ゆえにふりかかる、  
目の前の苦渋と不幸の撲滅なくして社会正義はありえないからだ。

しかし私たちはあくまでもサイエンスにこだわりたい。  
サイエンスに裏うちされた知恵と行動こそ、  
人々を納得させ、社会を動かし、  
着実な前進と新しい文化へとつなぐものだ。  
産業医学者は、  
ときには事業者の無理解に対して勇氣ある発言をなし、  
ときには自堕落な不健康者に対して慈愛あふれる言葉をかける、  
救済の医学から行動の医学への転化が産業医学なのだ。

そのためには勉強しよう、そのためには会話しよう、そのためには実践しよう、

産業医学に不明な臨床家がいる、  
産業保健を取り入れない事業者がいる、  
産業保健職を益をなさない学徒群と早計する社会がある、  
経済不安も加わる混沌のなかで、理解と納得の統合へと向かわなければならない。

混沌は無知により生じ、統合は智恵をもって前進する。  
混沌は欲望ゆえに翻弄され、統合は尊敬ゆえに収束する。  
混沌は無秩序ゆえに拡大し、統合は目的へのリーダーを持つ。  
統合には意思があり、行動があり、連帯がある。

さあ、新年の幕は上がった。  
私たちは専門性を高く掲げ、今年の各自の到達点を見定めながら、  
職場が原点!、の仕事を今年も元気に開始しよう。

## 第 222 回例会報告および 第 47 回見学会報告

松崎一葉 (筑波大社会医学系環境保健)



第 222 回一泊例会・第 47 回見学会は、「地域・職域保健連携の実践」をメインテーマとして、茨城県医師会長、佐藤怜先生を企画運営委員長として 2003 年 9 月 19 日(金)～20 日(土)に、つくば市にて開催されました。

つくばは、100 を超える研究教育機関が集積する日本初のリサーチパークシティとして約 30 年前に誕生しました。本会は、会員の皆様に、つくばの特性に触れていただこうと企画させていただきました。

第 47 回見学会では、宇宙開発事業団(現 宇宙航空研究開発機構)筑波宇宙センターにて、日本の宇宙開発の現状に触れていただくためにセンターの御案内をさせていただきました。有人宇宙開発は国際宇宙ステーション(ISS)実運用を拠点として、現在順調に進んでおり、数年後には日本人宇宙飛行士が ISS に滞在する予定です。そこでは、宇宙飛行士の健康管理が大きな問題となります。これまでのスペースシャトル飛行とは異なり、ISS 各国モジュール内では各国の法律が適用になることから、日本モジュール「きぼう」では、我が国独自の責任において飛行士の健康管理を行うことが要請されています。宇宙航空研究開発機構においては、「きぼう」実運用に向けて日本人飛行士の健康管理手法の確立を目指してさまざまな医学分野での研究・検討が行われております。宇宙開発における飛行士の健康管理問題は、まさに、有害業務に従事する労働者の健康管理という視点から、産業保健の一分野であると言えます。



第 222 回例会は、つくば国際会議場において、東京都監察医務院長である三澤章吾先生から、「東海村臨界事故に於ける産業保健の役割と教訓」の演題で、教育講演を頂きました。東海村臨界事故は我が国の原子力開発史上、稀にみる悲惨な事故でありました。当時、筑波大学社会医学系法医学研究室教授でいらした三澤先生から貴重な映像をご提供頂き、産業衛生における安全管理の重要性について強く再認識することができたと考えております。分科会では、近年のトピックスである「ED 対策」「禁煙活動の展開」を取り上げました。竜ヶ崎済生会病院副院長、武島仁先生から指定発言を頂き、まだまだ広く語られることの少ない ED 問題に対する基本的考え方について、我々産業医が EBM に基づく正しい知見を有することの重要性を認識することができました。さらに、患者さんが自ら相談に訪れにくい ED 問題を、職域で啓発することは、予防医学的観点からも極めて有用であるとの示唆を得ることができました。「職域における禁煙活動の展開」では、指定発言に茨城県医師会理事である齋藤浩先生と平間敬文先生から、ご経験をふまえた極めて貴重かつ実践的なお話をお聞きすることができました。

シンポジウムは、「産業保健領域における肝炎対策～地域・職域における連携 肝炎スクリーニング～」として、岡裕爾先生(日製日立総合病院院長)から「行政と地域との連携」、土井幹雄先生(茨城県衛生研究所所長)から「茨城県における慢性 B 型、C 型肝炎の疫学」、村上正孝先生(茨城産業保健推進センター所長)から「針刺し事故と職域における肝炎スクリーニングの現状」、松崎靖司先生(筑波大学臨床医学系助教授)から「市民と職場における健康ネットワーク」のお話を頂き、茨城県における地域職域連携による肝炎対策について議論を深めることができました。

会員の皆様には、様々な至らぬ点が多々ありましたことをお詫び申し上げ、さらに開催にあたり多大な御尽力を頂きました清水地方会長に改めまして感謝の念を表させていただきます。

## 関東産業医部会報告

### 働く人々への健康支援フォーラム — 至適労働環境確保のために —

三好祐司（関東産業医部会長）



2003年9月3日(水)東京半蔵門にて、従来の産業医研修とは趣向を変え、産業看護職、人事・労務担当者まで幅広い職種を対象とした研修会を実施しました。「至適労働環境確保のために」というテーマで、厳しい労働環境下での過重労働対策、過労やストレスとも関係する頭痛、健康障害の最大要因とされる喫煙対策が語られました。

埼玉産業保健推進センター和田攻所長の「過労死ゼロを目指して」の講演は、産業医学振興財団「産業医のための過重労働による健康障害マニュアル」の過重労働と脳・心臓疾患の著者としての重みが伝わりました。

富士通南多摩工場五十嵐久佳健康推進センター長は「頭痛を持つ勤労者ケアの重要性」で、頭痛に対する積極的な対策の労働現場における重要性を指摘しました。

パネルディスカッション「職場における喫煙対策 禁煙／分煙」では、滋賀医大上島弘嗣教授が職域としての大学で、学長のリーダーシップによる分煙の成功例を紹介しました。産業医大大和浩助教授は健康増進法の重み(罰則規定はないが民事訴訟はありうる)、厳密な空間分煙の必要性を説きました。奈良女子大高橋裕子教授は、ニコチンが脳内神経伝達物質の分泌を促し、快中枢を刺激することにより、依存状態を作りやすく、ニコチン代替療法が重要であること、禁煙支援組織の必要性を示しました。

開催が勤務時間帯であったため、出席者がやや少なかったのですが、パネルディスカッションは熱心な議論となり、健康増進法の施行に伴い、分煙・禁煙についての関心の高まりが感じられました。

## 第3回産業看護部会産業保健研修会報告

起 由美（日立健康管理センタ）



第3回産業保健研修会は2003年12月6日(土)東京産業保健推進センターにおいて開催された。

今回は「集団へのアプローチ」をテーマに、斎藤利郎先生(トシ家族療法研究所所長)に、ご指導を頂いた。

先生は、“職場集団にアプローチするには、集団の人の動き、心理を捉える感受性を養うことが大事”と言われ、2つのワークを行なった。ワーク①は、砂漠で遭難したと仮定し、生き残るために必要な品物のランク付けをするもので、その過程でグループに何が起こっていたかを振り返った。仕事に取り組むプロセス=グループダイナミクスは、メンバーの士気・参加・感情・雰囲気・影響力・葛藤等に関するものであり、それらが、今ここでどのように起こっているかを早く診断する事が出来れば、効果的に仕事に取り組むことができる。そのグループ行動のプロセス分析を助ける観察の指針を学んだ。ワーク②は、「八甲田山死の彷徨」から、生死を分かった2つの隊の比較検討、大尉の失敗の根本原因、以上を踏まえて、自分達の職場の課題をワークし、リーダーシップのあり方を学んだ。先生の“上司が違っていたら、果たして大尉は成功できたであろうか。原因は上司にあるのだろうか”の問いかけは興味深かった。

参加者28名と小規模であったが、少ない良さが生きて、講師の十分な指導とフォローを頂くことができ、また2つのワークは今までに経験のない内容で、講義での展開も興味深く参加者に好評であった。



## 関東産業衛生技術部会 第 4 回研修会報告

伊藤昭好 (労研)



2003 年 7 月 31 日(木)18 時より順天堂大学にて、約 20 名の参加で第 4 回関東産業衛生技術部会研修会を産業衛生技術部会・教育研修会と共催した。昨年度末、人間工学の専門家資格制度が発足した。産業衛生技術部会

においても日本版インダストリアルハイジニストの資格認定を将来の活動視野に入れているので、人間工学専門家の認定制度発足へむけた活動に当初から関わっている酒井一博先生(日本人間工学会理事・労研)に、新しい制度を発足させるに当たっての様々な経験等を紹介していただいた。

概要は以下の通りである。日本人間工学会は、1994 年に人間工学専門家資格認定委員会を発足し、以来 4 期の委員会を経て、認定制度が制定された。今回の人間工学専門家資格認定は、専門家の教育プログラムと資格認定プログラムを別の機関で実施するという国際的ルールを満たしていないため、国際人間工学会による国際認証には至っていない。その具体的な経緯や、第 1 期認定試験の受験者は 145 名であった(約 2,000 人の会員中)こと、資格が産業界の活性化のためにどこまで使えるのか明確にすること、産業界との連携によって資格制度を応用したビジネスモデルの成功例を作ることが今後の課題であることが話された。いずれも産業衛生技術部会の認定制度を考えるにあたって、大いに示唆に富む内容であった。

また酒井先生は産業衛生学会の産業疲労研究会の世話人でもあり、研究会で人間工学リスクアセスメントの 3 点セット(自覚症しらべ、身体疲労部位、作業条件チェックリスト)を選定して活用法を提案し、同様の視点を ISO/TC159/SC3 のワーキンググループにおいて検討・発信していることも併せて報告された。

## 中小企業安全衛生研究会 第 37 回全国集会報告

武藤孝司 (獨協医大)



中小企業安全衛生研究会第 37 回全国集会が、平田衛氏(産医研)と私が世話人となって、2003 年 12 月 6 日(土)(10 時~17 時)とちぎ健康の森において、全国からの参加者 158 人を得て開催されました。

清水英佑地方会長のご挨拶に続き、産業保健と地域保健の連帯を主題に教育講演「小規模事業所に対する産業保健サービス供給システム」が平田衛氏によって、また特別講演「小規模事業所に対する包括的な産業保健サービスの展開」が甲田茂樹氏(高知医大)によって行われ、各種の支援システムの構築について総括的な解説と示唆に富んだ事例が発表されました。

午後からは、百済さち氏(府中小金井保健所)による「地域保健と産業保健との連携に関する保健所の役割」と題する基調講演がもたれ、地域保健行政の事業・支援を基軸に両者の連携を強化する活動指針「10 の提言(案)」がなされました。

また、犬塚君雄氏(愛知県健康福祉部)と私が担当したシンポジウム「産業保健サービス機関の課題と展望」では、地域産保から安楽之孝氏(栃木地域産保)が、地域保健から増田初江氏(栃木県北健康福祉セ)が、企業外労働衛生機関から森雄一氏(神奈川県予防医学)が、嘱託産業医から森朋子氏(福岡労研)が、健康保険組合から飯島美世子氏(健保連)がそれぞれの立場からの発表を行い、より具体的な連携内容を実現するために、会場の多数の参加者から熱心な質疑と貴重なご提案を頂きながら真摯な討論が重ねられました。

最後に、この場をお借りしまして、共催、後援、協賛を頂きました団体ならびに参加者の皆様に厚くお礼申し上げます。

<http://www.dokkyomed.ac.jp/dep-m/pub/chusho37.html>



## 理事会報告より

清水英佑 (慈恵医大)

日時：平成15年9月13日・12月23日

### 審議事項

1. IT化小委員会より、HPの説明があり、今後業務委託契約を行う。平成16年4月1日より使用開始の予定。学会誌の11月号で詳細に報告した。
2. 倫理審査委員会審査委員：堀江正知、二塚信、河野啓子、那須民江、保原喜志夫、中桐孝郎、三好祐司。検討小委員：小木和孝、清水英佑、錦戸典子。
3. 「産業疫学研究会」および「職域における睡眠呼吸障害研究会」の発足が承認された。
4. 定款改定案、代議員選任規定(案)、役員選出規定(案)が提出された。代議員は地方会を移動しても資格を継続できる。平成16年度代議員選挙で代議員が選任されるまで、それまでの評議員を代議員とすることにした。また、地方会選挙規定の改正が必要とされた。
5. 各研究会の活性化のために、3年毎の見直しと、継続の理由の確認、統廃合の検討、HPの活用を行っていく。
6. 産業医部会幹事が藤沢貞志氏に交代した。
7. 専門医制度委員会各委員が交代する(H16.4より3年間)。
8. 奨励賞(廣尚典、澤田亨)、功労賞(古屋統、興貴美子、橋本和夫、鎌田登志子、上田美代子、野田一雄、住野公昭)、名誉会員(山村晃太郎、莊司榮徳、高田和美)の各氏となった。
9. 生涯教育ガイドライン要綱案が承認された。
10. 臨床研修の義務化に伴う地域保健研修の中で、産業保健を指導する者の教育技法の研修が、厚労省より要請された。

### 報告事項

1. 第78回日本産業衛生学会は、平成17年4月21～23日に東京プリンスホテルで、4月24日の特別研修会は五反田ゆうぼうとで開催する。
2. Journal of Occupational Health がMEDLINEに掲載された。
3. 「就労女性健康研究会」の世話人が野原理子氏に交代した。
4. 学会正会員数は7209人(12月15日現在)。
5. 専門医試験は平成16年8月28・29日に行う。

## 幹事会報告より

鈴木勇司 (慈恵医大)

日時：平成15年9月20日・12月20日

1. 内田健夫幹事、諏訪園靖幹事の辞任が承認された。
2. 山口直人氏、近藤正樹氏、大久保靖司氏が新幹事として承認された。
3. 第78回日本産業衛生学会は、平成17年4月21日(木)-23日(土)東京プリンスホテル、24日(日)研修会五反田ゆうぼうと簡易保険ホールにて開催予定。企画運営委員会および実行委員会名簿(案)が承認された。今後委員就任の諾否を確認するとともに、シンポジウムテーマなどについてのアンケート調査を行うこととした。
4. 関東地方会が担当する日本産業衛生学会の補助金として、毎年150,000円を積み立てていくことが承認された。
5. 第224回例会は平成16年2月21日(伊藤昭好幹事)(於 川崎市交流センター)、第225回例会・平成16年度総会は平成16年5月22日(照屋幹事)(於 杏林大学医学部大学院講堂)、第226回一泊例会・第48回見学会は平成16年8月27-28日(柏崎幹事)(於 埼玉県さいたま市)で開催することになった。

## 第78回日本産業衛生学会開催のお知らせ(第1報)

標記学会は関東地方会の企画運営によって開催されます。

企画運営委員長：清水英佑(東京慈恵会医科大学環境保健医学講座教授)

開催日：2005年4月21日(木)～23日(土)、24日(日)研修会

会場：東京プリンスホテル、五反田ゆうぼうと(研修会場)

## 研究室紹介

### 聖マリアンナ医科大学予防医学教室

吉田勝美

聖マリアンナ医科大学予防医学教室は、1996年に旧衛生学教室と旧公衆衛生学教室が統合され誕生した教室です。教室の沿革では、旧公衆衛生学教室は山村行夫名誉教授が重金属中毒について、旧衛生学教室は工藤吉郎客員教授がポルフィリン代謝について研究の成果を残されています。

現在の教室は、教授1名(吉田勝美)、助教授1名(山内博)、講師2名(杉森裕樹、高田礼子)、助手3名(荒井二三夫、網中雅仁、須賀万智)、実験助手(田中利明、矢作名保恵)、教室秘書(山瑞尚美)で構成されています。研究に関しても、各々の教室員の専門領域も踏まえ、共同での研究の推進を図っています。

教室の研究は、吉田が1994年に着任して以来、疫学および健康管理に関する研究をスタートし、川崎市や県内の地域保健関係の共同研究も多く、大学として地域職域を統合した保健医療活動の研究拠点にしたいと考えています。

一方、教室設立以来、重金属中毒、ポルフィリンの研究に関する蓄積した研究成果を踏まえ、現在でもヒ素およびポルフィリン代謝に関して研究が進んでいます。

単科大学のメリットを生かして、学内他科との共同研究が盛んに行われており、救命救急医学、内科学、産婦人科学、泌尿器科学、難病治療研究センターなどとの共同研究が進行中です。教室の研究方針として、予防医学は学際的研究領域であるべきとの考えから、学内外に関わらず共同研究を進めたいと思います。



## 産業保健実践活動報告(第7回)

### とちぎ産業医会

鎌田郁子(キャノン宇都宮光機)



とちぎ産業医会は栃木県内の専属産業医の会として1999年7月に発足しました。

NTT栃木の橋本真一先生と私が、設立世話人として準備を開始、産業保健推進センターに事務局をお願いし、橋本先生の

転勤後は本田技研の小林淳先生と研修会の企画・運営をしています。県内の専属産業医は少ないため1回の研修会は10名程度の参加で少数精鋭で開催しています(会員数22名)。

主な事業は定例の研修会です。研修を通じて専属産業医の専門性を確保すること、日常業務に関連のある実践的な活動をしたいと考えて企画しています。4年間で13回実施、うち工場見学は4回実施し会員の日常業務についての情報交換をしています。

また、2002年からは栃木県医師会の日本医師会認定産業医研修会にとちぎ産業医会のメンバーが各職場の事例を提供し検討のお手伝いをしています。2003年の認定産業医研修会では産業保健推進センターの企画で認定産業医の先生方にグループディスカッションをしていただき私たちはアドバイザーとして参加。今年度5回開催の予定です。多い時は40名以上の参加者があり、夜9時過ぎまで認定産業医の先生方の熱いディスカッションにご一緒させていただいています。いろいろな意見を伺い地域の嘱託産業医との交流になります。

私自身、元来、引っ込み思案のほうなので独りではお引き受けできなかつただろうことも、多々あるのですがとちぎ産業医会の仲間を支えられ活動してきました。設立時に栃木県内の産業保健の一翼を担う会にしたいと願っておりましたが、着実に県内の産業保健の推進に貢献できる会に育ちつつあると考えています。

幹事を4年間務めました。5年目に入り、新たな展開を求めて次回から富士重工業の倉富靖子先生に幹事をバトンタッチする予定です。更なる会の進化と発展を願っております。

# 3部会フリーページ

## 産業衛生技術部会の紹介

関東産業衛生技術部会事務局

原 邦夫 (労研)

### 1. 産衛・技術部会の特色

「産業衛生技術とは、生産の場の条件がその作業を行うのに適したものかどうかを判断する技術あるいは不適切な場合に必要の改善実施のための技術」(中明賢二部会長)と考えられる。予防的な側面から産業現場で役立つ様々な研究・技術開発・現場支援等々を行うことが、技術部会に期待されている。

現時点での部会員の職種は、研究職、衛生管理者・衛生工学衛生管理者、および作業環境測定士が多く、また、専門分野は、作業環境測定、作業環境管理、そして毒性学/中毒学、生物学的モニタリング、環境問題および分析をあげるものが多い。

### 2. これまで

1999年に準備会として発足した技術部会は、現在、春秋に幹事会および大会を開催している。大会では、産業衛生技術をめぐって、時々の特ピックから産業衛生技術に関する教育研修のあり方など多岐にわたってシンポジウム・講演会を行ってきた。組織的には、現在8地方会技術部会が発足し、5委員会が動いており課題を持って取り組んでいる。

以下に活動内容を紹介する。

(1)編集委員会:「産業衛生技術講座」ということで、40以上の項目にわたって、技術部会メンバーによる産業衛生技術のミニレビューを産業衛生学会誌に掲載している。この内容をどう活かすかは編集委員会や大会等で議論されることになるが、産業衛生技術のテキスト作りや教育研修制度・認定制度との組み合わせ方などの議論が今後進むことになる。

まだ技術部会員に登録していない産衛会員、とくに技術系会員諸氏に、技術部会への参加(ホームページから、参加費は無料)と、今後の技術部会の発展に向けた意見反映を望むところである。

(2)IT委員会:ホームページと部会員間のメーリングリストを立ち上げて運用している。

ホームページはご存じの通り

[<http://www.isl.or.jp/JSOIttech/index.html>]

であり、時々技術部会の催し物を紹介している。

(3)企業内安全衛生グループとの交流委員会:全国労働安全衛生大会の場での交流を中心に、産衛会員以外の衛生管理者との連携およびその具体化の検討が進められている。本委員会とは別に、技術部会に対し、各地の衛生管理者交流会からの講演依頼が舞い込み始めており、技術部会としての講師派遣体制や教育研修システム作りへの展望も予想される。

(4)許容濃度等の作業現場への活用に関する委員会:産衛が勧告している許容濃度・許容基準などを作業現場で活用することについての検討が、シンポジウムなどを通じて進められている。

(5)教育研修委員会:年4回の教育研修会を開催し、産業衛生技術に関する教育研修の内容・研修制度・認定制度などのあり方を検討している。

### 3. 今後の活動の案内

この紹介文が印刷されて関東地方会の会員諸氏の手元に渡る頃には、技術部会の2003年度の活動はほぼ終了し、2004年度の活動の具体的な中身が明らかになっていることと思われる。現時点で少し日程などまだ本決まりでないものも含めて、いくつか紹介しておきたい。

2004年度の産衛学会では、技術部会が提案したフォーラムが開催される予定である。下表にその案内(暫定)を示した。秋にも技術部会主催のシンポジウムを開催する予定である。また、2月衛生技術部会と教育研修委員会と合同で教育研修会を開催する予定である。お知らせはホームページに掲載の予定である。

-----2004年4/13-16の間-----

フォーラム「作業環境評価指標と許容濃度等の活用」

1. 総論 早稲田大学・名古屋俊士先生
  2. 許容濃度値の決め方 慶応大学・武林 亨先生
  3. 許容濃度の利用法 公衛研・熊谷 信二先生
  4. 許容濃度を指標とした作業環境評価  
日測協・小西 淑人先生
  5. 作業場管理での許容濃度利用の実際  
エクソン・橋本 晴男先生
- 座長 産業医大・田中 勇武先生

## おめでとうございます

厚生労働大臣安全衛生推進賞

國吉重徳 先生 (労働衛生コンサルタント・作業環境測定士)

井上 温 先生 (神奈川県労働安全衛生協会衛生管理推進委員会委員長)

中央労働災害防止協会緑十字賞

三澤哲夫 先生 (千葉工業大学工学部デザイン科教授)

## 学会等開催予定

第 224 回関東地方会例会

日時：2004 年 2 月 21 日 (土) 13:00 から

会場：川崎市国際交流センター

(川崎市中原区木月祇園町 237-1)

当番幹事：伊藤昭好 (労働科学研究所)

第 225 回関東地方会例会・平成 16 年度総会

日時：2004 年 5 月 22 日 (土) 12:30 から

会場：杏林大学医学部大学院講堂

(東京都三鷹市新川 6-20-2)

当番幹事：照屋浩司

(杏林大学医学部衛生学公衆衛生学)

第 77 回日本産業衛生学会

日時：2004 年 4 月 13 日 (火)～16 日 (金)

2004 年 4 月 17 日 (土) 研修会

会場：名古屋国際会議場

(名古屋市熱田区西町 1-1)

企画運営委員長：井谷徹 (名古屋市立大学大学院医学研究科健康科学・環境生態学教授)

ホームページ：<http://tosh-net.umin.jp/sanei77/>

第 74 回日本衛生学会総会

日時：2004 年 3 月 25 日 (木)～27 日 (土)

会場：順天堂大学医学部本郷キャンパス

(東京都文京区本郷 2-1-1)

学会長：稲葉裕 (順天堂大学医学部衛生学教室教授)

ホームページ：

<http://www.nacos.com/jsh/main/homeisei/74soukai.html>

## 編集後記

編集に参加させていただいて 2 年になります。当初は何もわからずハラハラドキドキでしたが、2 年目にもなりますと少しは編集にも参加でき、今でははずけずけと意見が言えるようになりました。

昨年、世の中では、6 万年に一度というイベント、そう「火星の地球大接近」があり、変わり物好きの私としては、こんなイベントに参加できたことに感激でした。一方で、石油タンクの爆発事故やタイヤ工場の炎上事故など、企業の危機管理が問われる中、火にかかわる事故が連続で起き残念でした。

さて、気分も新たに新年号の発刊です。関東地方会ニュースでは、新年を迎え、産業医・産業看護・産業衛生技術の 3 部会のフリーページを企画致しました。その最初は産業衛生技術部会が担当です。各部会の責任のもとに自由なページとさせていただきますので、会員の皆さま、是非、これからも楽しみにしててください。

また、ドシドシご意見をお寄せ下さい。お待ちしております。(山野)

J R 新橋駅から日比谷通りの街路樹の下を歩いて慈恵医大まで 15 分。方向音痴の私も 2 年目ともなればだいぶ慣れて、あたりのお店を覗く余裕ができました。編集会議は伊藤委員長を始め各委員の熱心かつ活発な議論の中で、大きなテーマから原稿の段落、句読点という小さな校正まで小気味良いテンポで進められ、初心者の方は感動しつつ心地良い緊張と喜びを感じているところです。その中において第 7 号では、「産業看護研究会のあゆみ」が掲載され、産業看護活動が現在まで脈々と受け継がれていることを実感したことと、第 8 号では 3 部会部長会の座談会が企画され、3 部会連携の必要性と、それぞれの部会のフリーページ創設が提案されたことが印象的でした。

より魅力的な紙面づくりを目指して動き始めている地方会ニュース第 9 号を新年に届けられることをうれしく思います。(田中)

## 編集委員名簿

- ◎伊藤岩美、稲垣弘文、今井常彦、宇佐見隆廣、  
○大久保靖司、沖野哲郎、川名ヤヨ子、小峰慎吾、  
◇鈴木勇司、田中三千代、久内徹、原美佳子、  
廣尚典、樹元武、宮本俊明、山野優子  
◎編集委員長 ○編集副委員長 ◇事務局